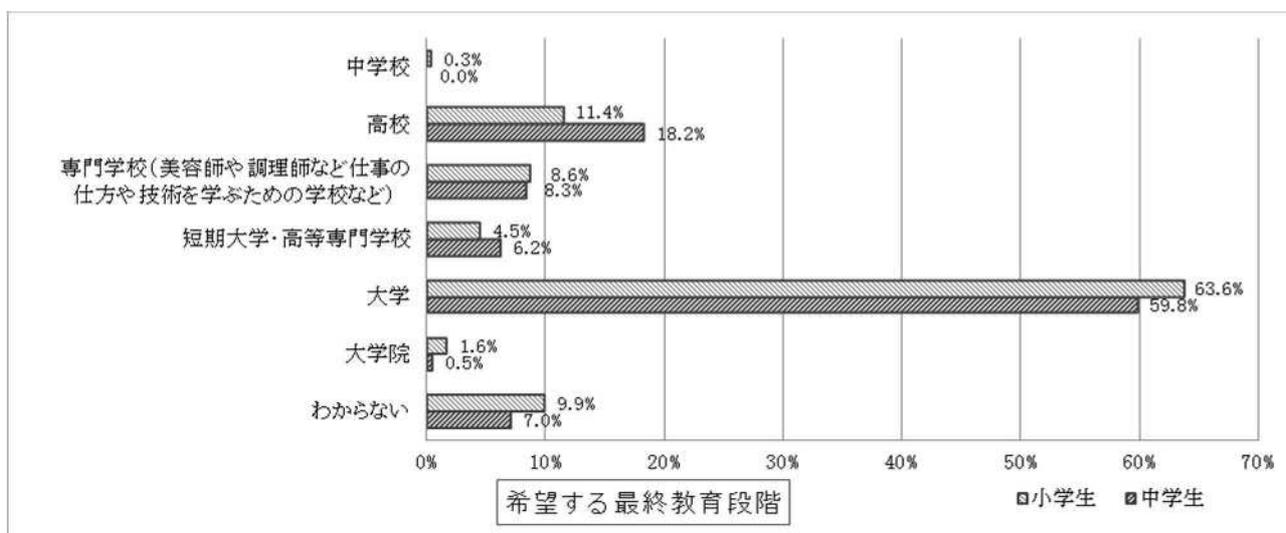


4. 子どもへの期待と関心

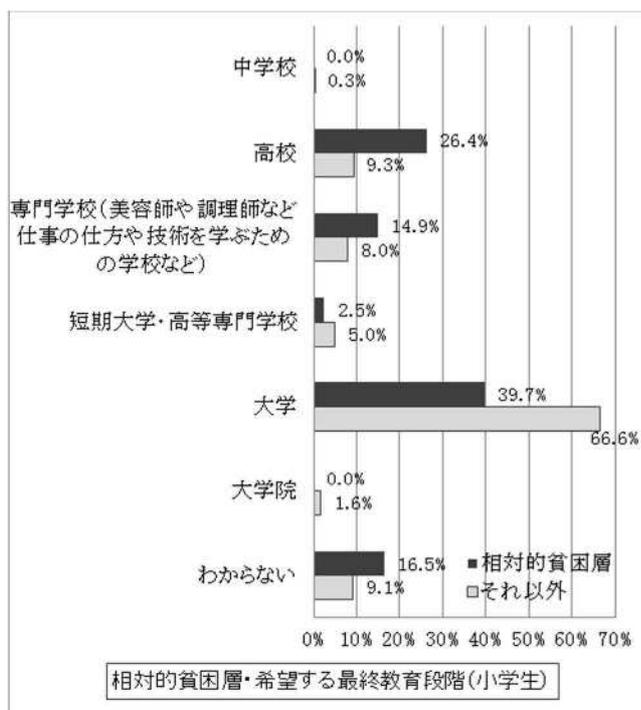
問 15(1) あなたは、お子さんの進学について、どこまで希望されていますか。

小学生、中学生の保護者ともにもっとも多い回答は「大学」で6割前後、次いで多いのが「高校」です。また、「わからない」という回答は、小学生の保護者で9.9%、中学生の保護者では7.0%です。

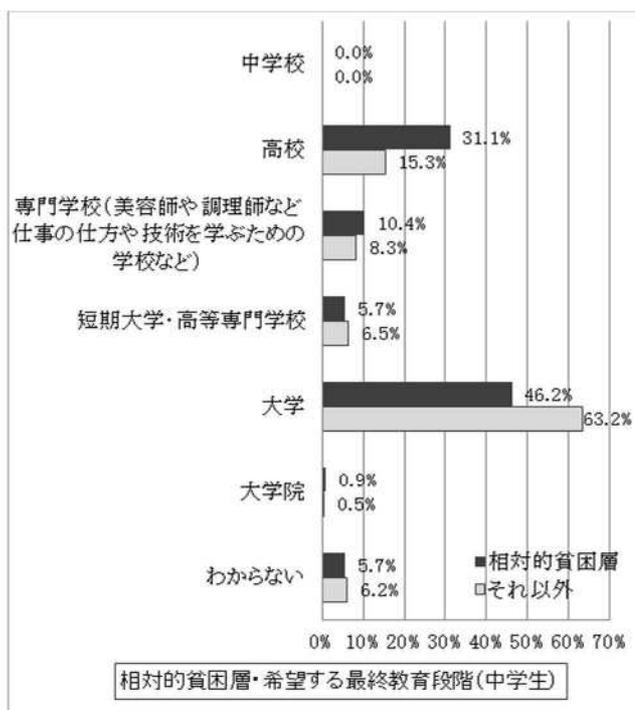
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともにもっとも割合が高い回答は「大学」ですが、小学生の保護者(39.7%)は「それ以外」より約27ポイント低く、中学生の保護者(46.2%)では「それ以外」より17ポイント低くなっています。また「高校」については、小学生の保護者(26.4%)は「それ以外」より約3倍高く、中学生の保護者(31.1%)は「それ以外」の約2倍という結果です。「わからない」という回答が、小学生の保護者では16.5%で「それ以外」の9.1%に比べて高い割合であることがわかります。



(小学生 N=1503 中学生 N=1069)



(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1228)

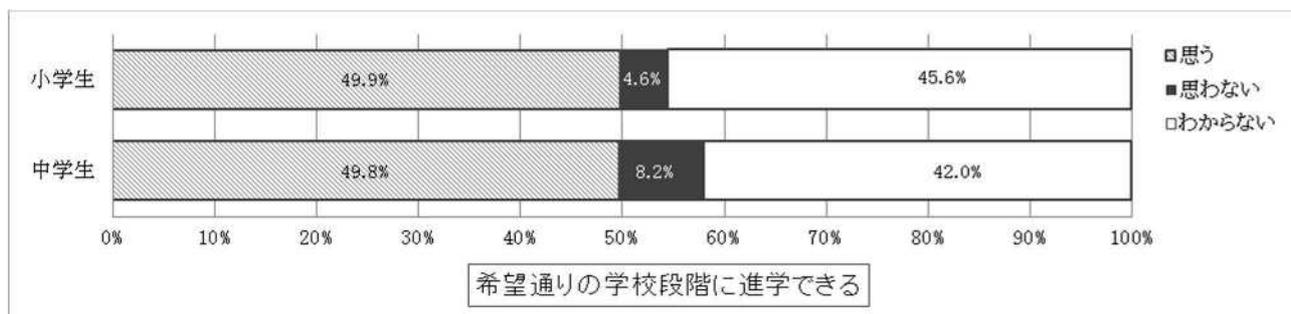


(相対的貧困層 N=106 それ以外 N=843)

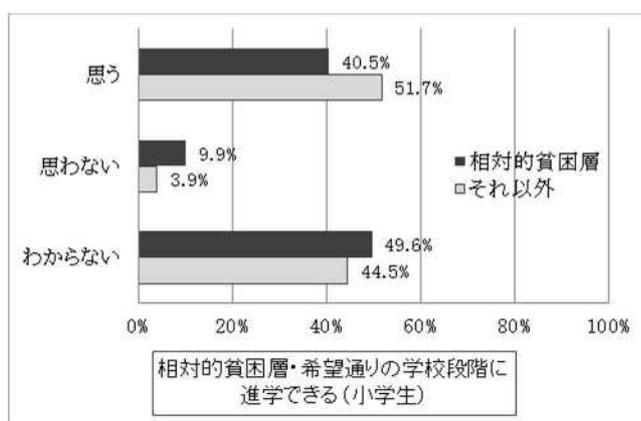
問 15(2) あなたは、お子さんが問 15 (1) の希望どおりの学校まで進むことになると思いますか。

「思う」という回答は、小学生、中学生の保護者ともに約半分です。小学生の保護者に比べて中学生の保護者では「思わない」の割合が高くなっています。

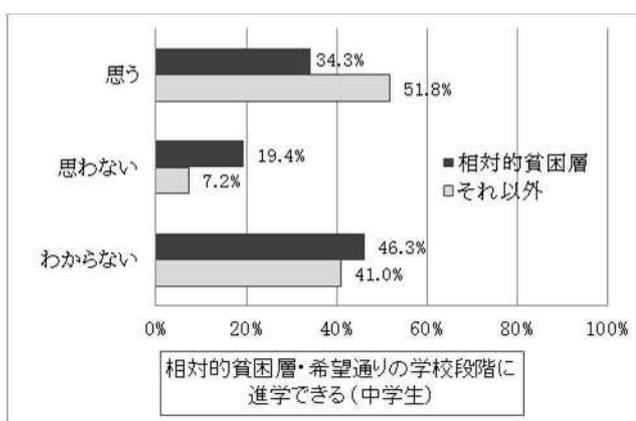
相対的貧困層では、小学生、中学生の保護者ともに、「それ以外」に比べて「思う」という回答の割合が、小学生の保護者で約 11 ポイント低く、中学生の保護者では約 17 ポイント低くなっています。



(小学生 N=1514 中学生 N=1085)



(相対的貧困層 N=121 それ以外 N=1237)

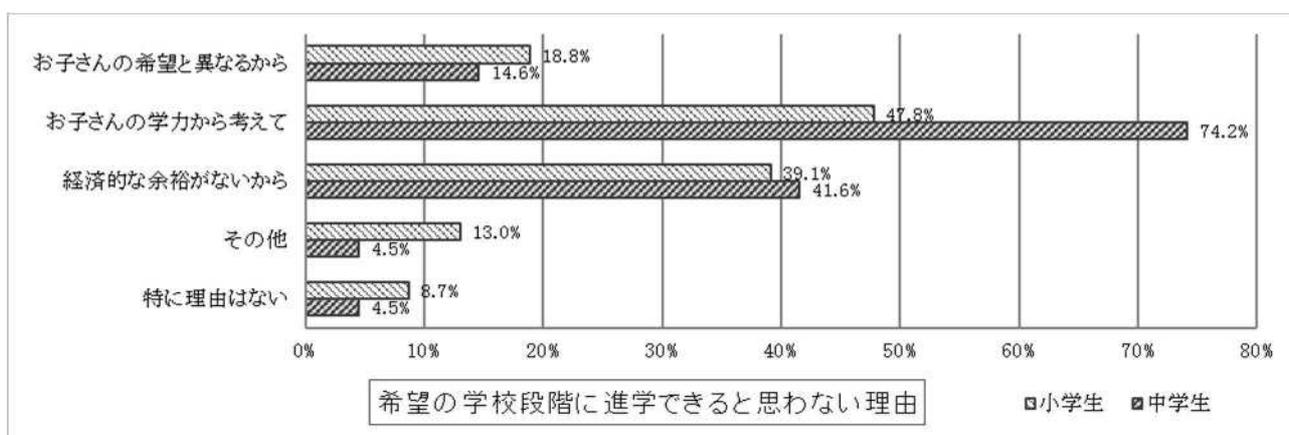


(相対的貧困層 N=108 それ以外 N=856)

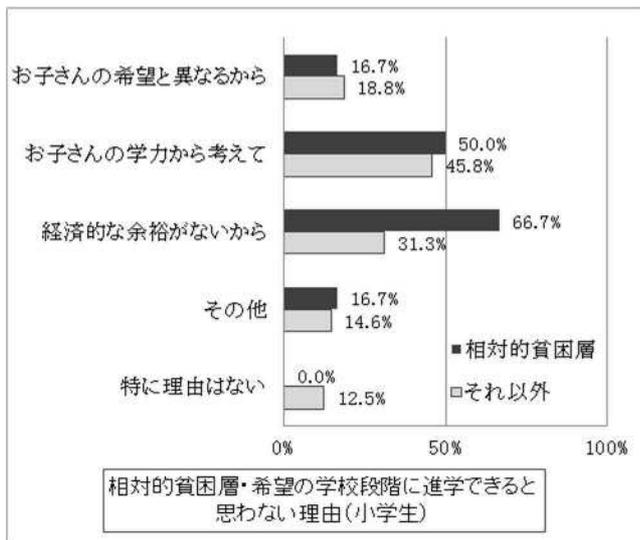
問 15(3) 「思わない」理由 (複数選択) [問 15(2)で「思わない」と回答した人のみの設問]

「お子さんの学力から考えて」という回答がもっとも多く、小学生の保護者 (47.8%) に比べて、中学生の保護者では 74.2%と、目立って高い割合を占めています。次いで「経済的な余裕がないから」で小学生、中学生の保護者ともに 4 割前後です。

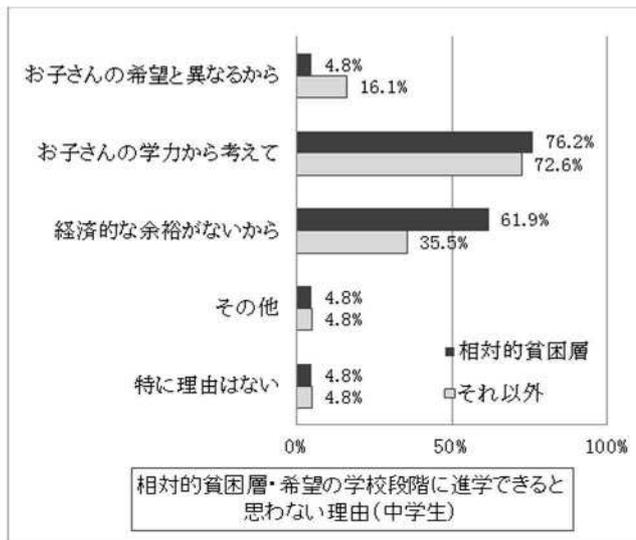
相対的貧困層では、小学生の保護者では「経済的な余裕がないから」(66.7%)、「お子さんの学力から考えて」(50.0%) の順ですが、中学生の保護者では「お子さんの学力から考えて」(76.2%)、「経済的な余裕がないから」(61.9%) と続いており、経済的理由を挙げる割合が高くなっています。



(小学生 N=69 中学生 N=89)



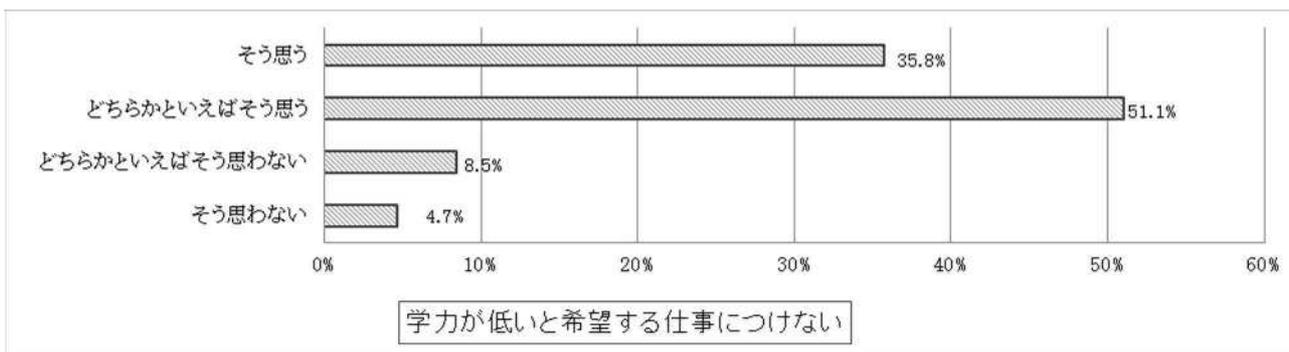
(相対的貧困層 N=12 それ以外 N= 48)



(相対的貧困層 N=21 それ以外 N=62)

問 16① 学歴が低いと将来希望する職業につけない

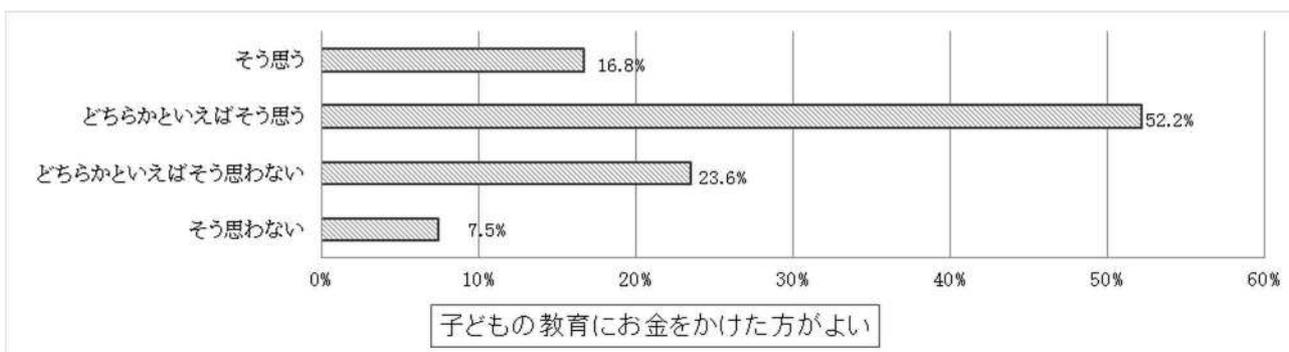
もっとも多い回答は「どちらかといえばそう思う」で「そう思う」との合計は9割弱です。相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。



(N=2606)

問 16② 他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい

もっとも多い回答は「どちらかといえばそう思う」で「そう思う」との合計は約7割です。相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。

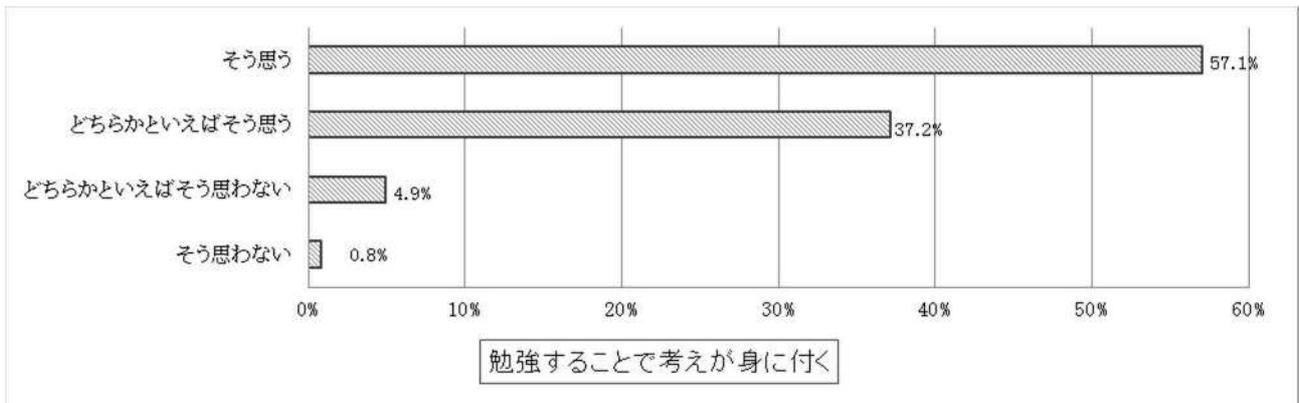


(N=2602)

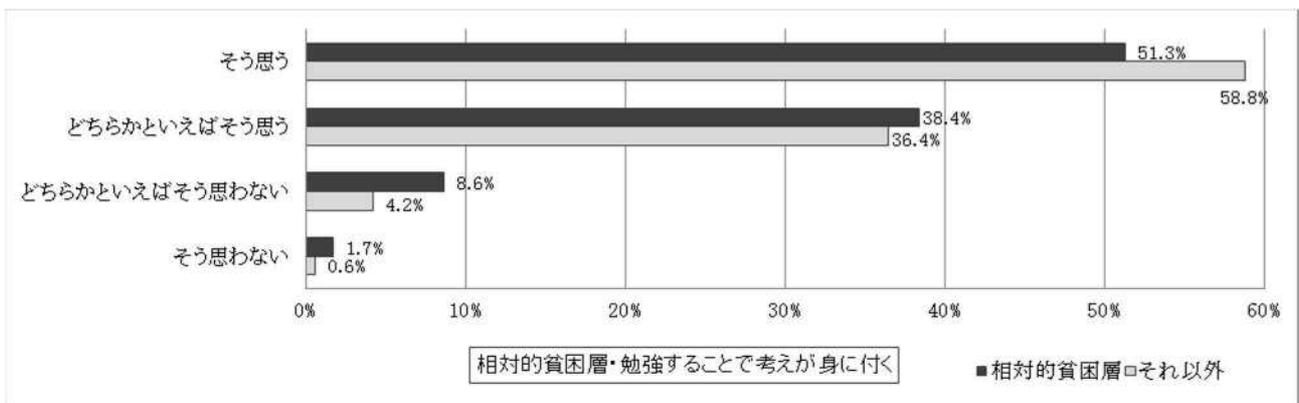
問 16③ 勉強することでいろいろな考えを身に付けることができる

もっとも多い回答は「そう思う」で「どちらかといえばそう思う」との合計は、9割を大きく超えています。

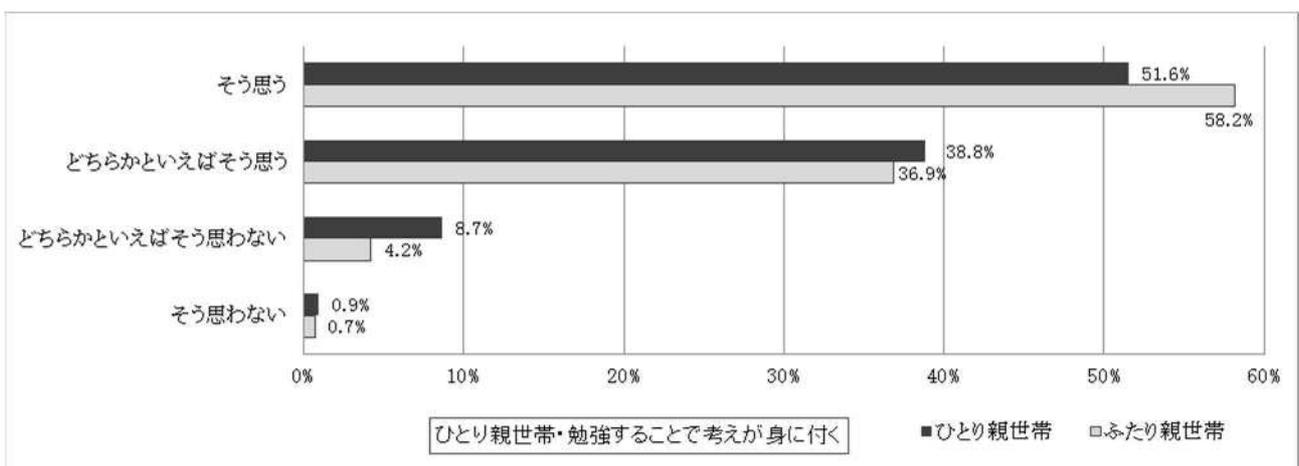
相対的貧困層では、「それ以外」に比べて「そう思う」の割合が低く、「どちらかといえばそう思わない」の割合が高くなっています。ひとり親世帯の保護者の回答でも同様の傾向が見られます。



(N=2604)



(相対的貧困層 N=232 それ以外 N=2098)



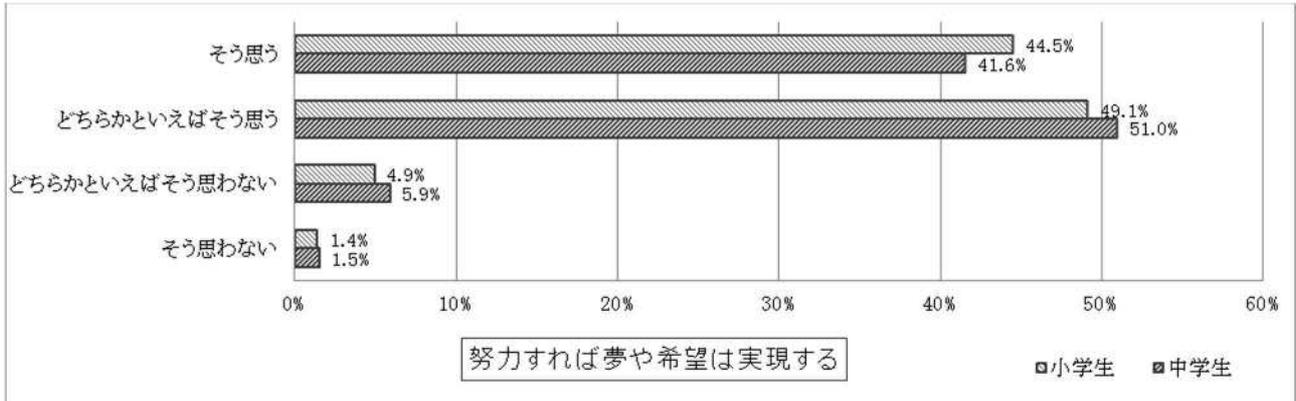
(ひとり親世帯 N=322 ふたり親世帯 N=2198)

問 16④ 努力すれば夢や希望は実現する

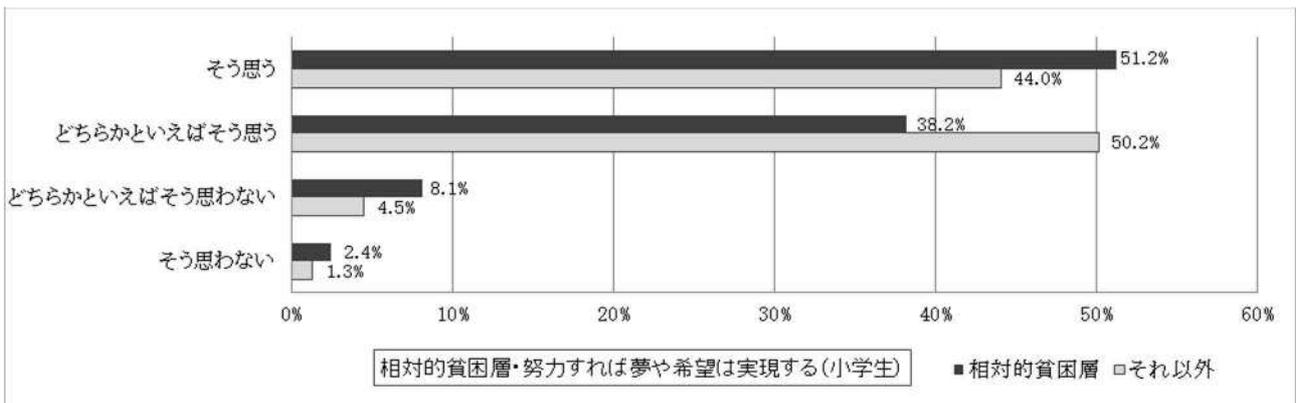
「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」という回答の合計が、小学生、中学生の保護者ともに9割を超えています。

相対的貧困層では、小学生の保護者で「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」という回答の割合の合計が、「それ以外」に比べて約2倍になっています。中学生の保護者には統計的な差は見られません。

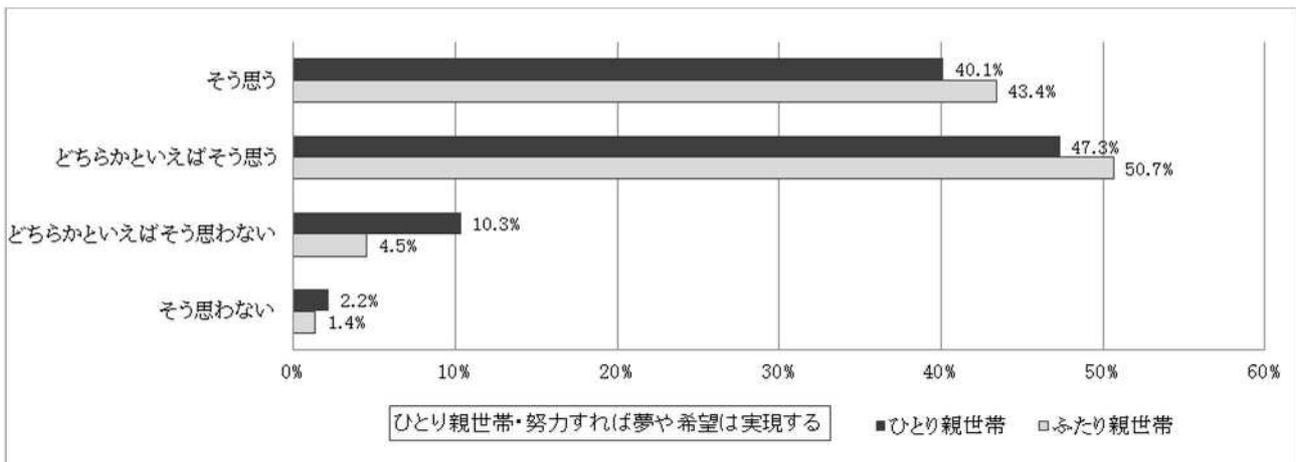
ひとり親世帯の保護者では、ふたり親世帯に比べて、肯定的な回答の割合が低くなっています。



(小学生 N=1516 中学生 N=1082)



(相対的貧困層 N=123 それ以外 N=1240)

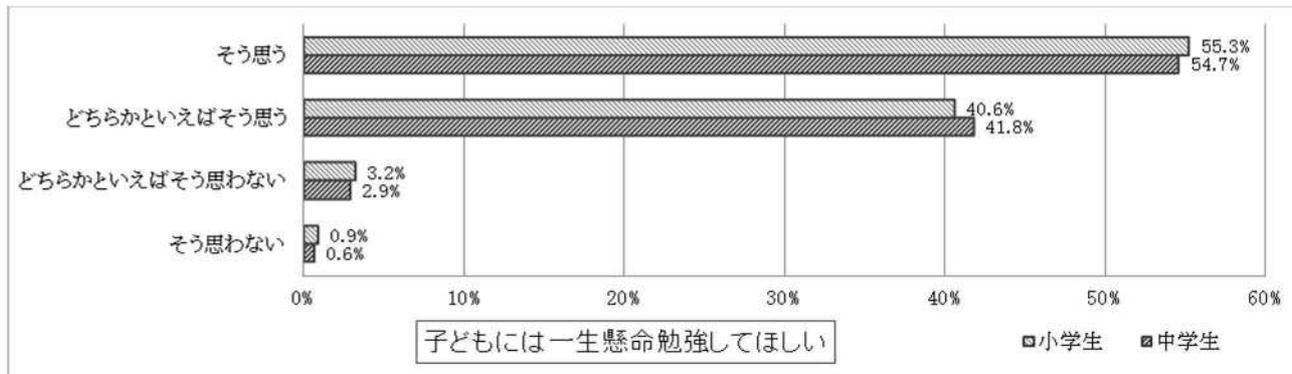


(ひとり親世帯 N=319 ふたり親世帯 N=2200)

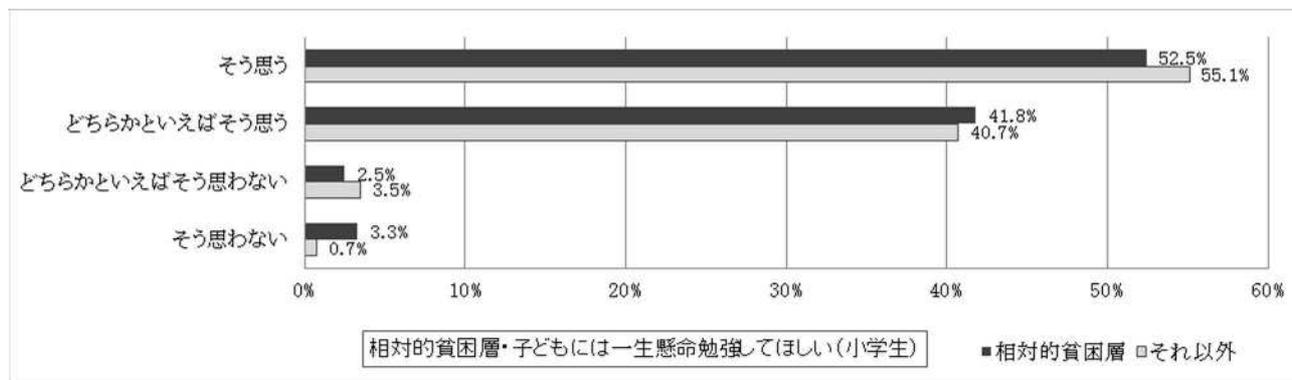
問 16⑤ 子どもには一生懸命勉強してほしい

もっとも多い回答は「そう思う」で「どちらかといえばそう思う」という回答との合計は、小学生、中学生の保護者ともに95%以上です。

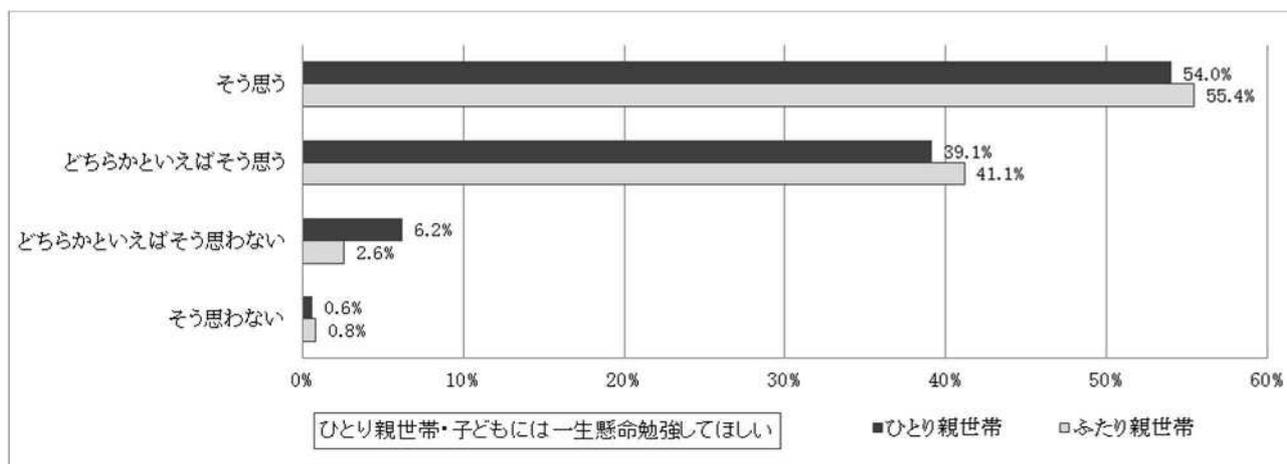
相対的貧困層では、小学生の保護者で「そう思わない」という回答の割合が「それ以外」に比べて高くなっています。中学生の保護者には統計的な差は見られません。ひとり親世帯の保護者では、ふたり親世帯に比べて、肯定的な回答の割合がやや低くなっています。



(小学生 N=1514 中学生 N=1083)



(相対的貧困層 N=122 それ以外 N=1238)

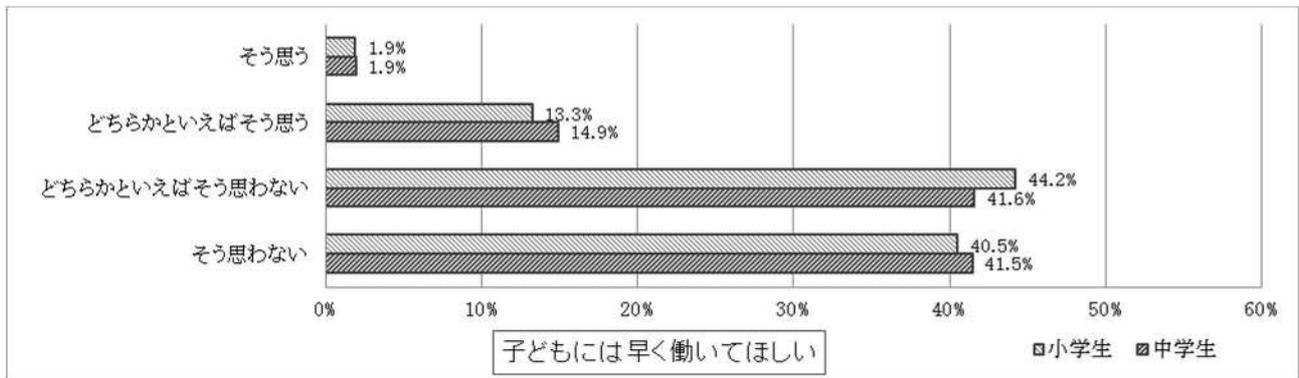


(ひとり親世帯 N=322 ふたり親世帯 N=2197)

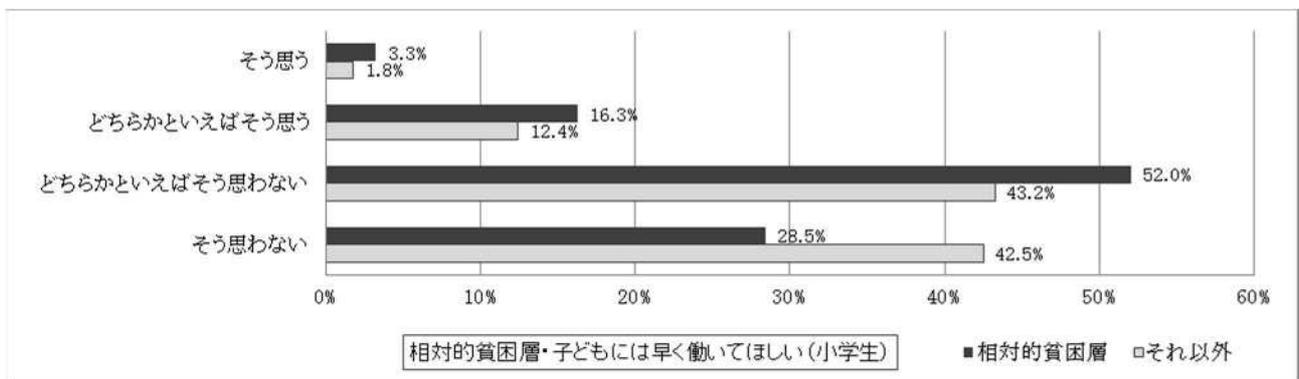
問 16⑥ 子どもには少しでも早く働いてほしい

もっとも多い回答は「どちらかといえばそう思わない」で、「そう思わない」という回答との合計は、小学生、中学生の保護者ともに8割を超えています。

相対的貧困層では、小学生の保護者では「そう思わない」という回答が「それ以外」より14ポイント低いことがわかります。中学生の保護者には統計的な差は見られません。



(小学生 N=1512 中学生 N=1079)

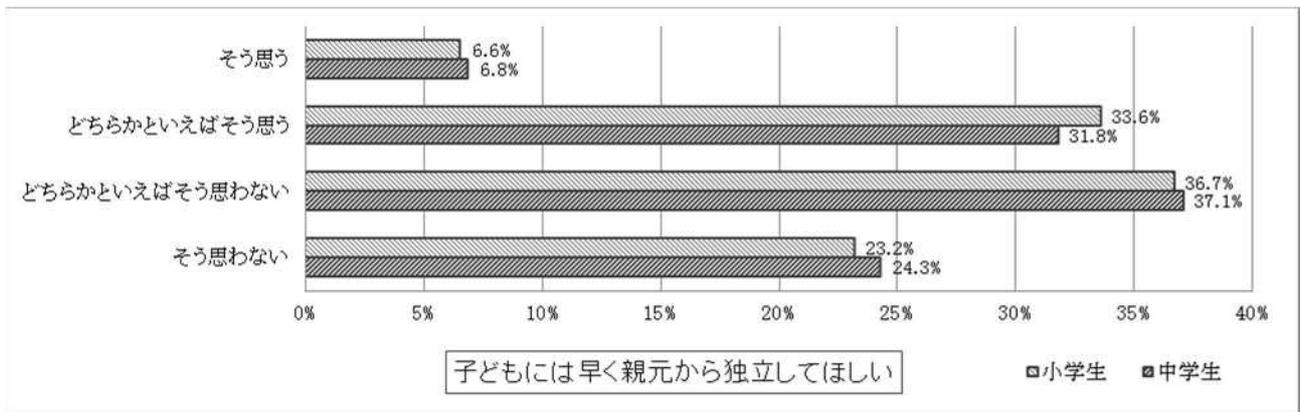


(相対的貧困層 N=123 それ以外 N=1237)

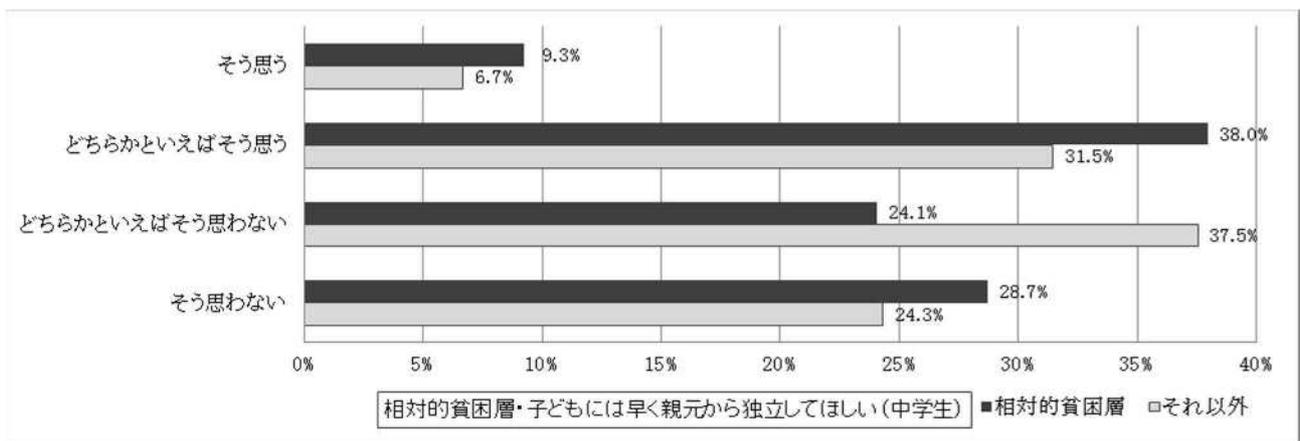
問 16⑦ 子どもには早く親元から独立してほしい

もっとも多い回答は「どちらかといえばそう思わない」で「そう思わない」という回答との合計は、小学生、中学生の保護者ともに約6割です。

相対的貧困層では、小学生の保護者には統計的な差は見られませんが、中学生の保護者では「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」との合計の割合は「それ以外」に比べて9ポイント高くなっています。



(小学生 N=1510 中学生 N=1082)

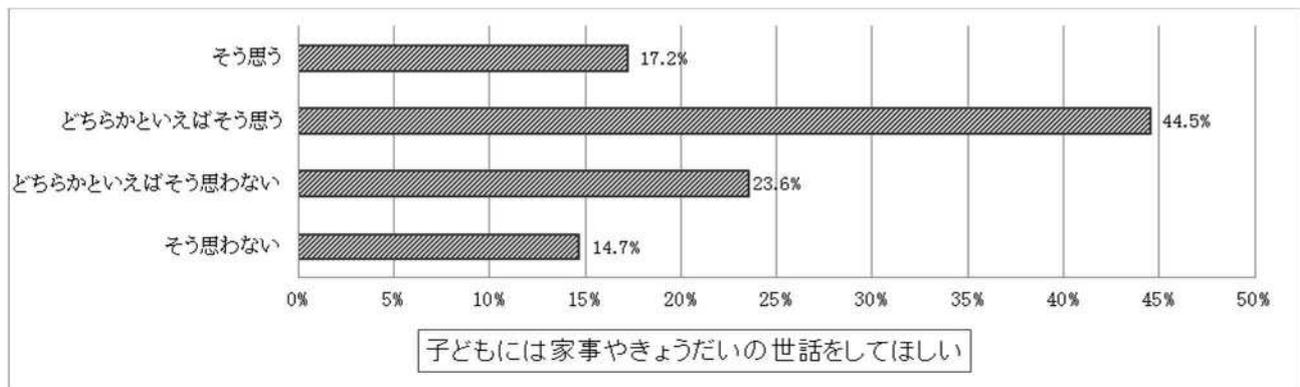


(相対的貧困層 N=108 それ以外 N=855)

問 16⑧ 子どもには家事やきょうだいの世話をしてほしい

「どちらかといえばそう思う」という回答がもっとも多く、4割半ばです。

相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。

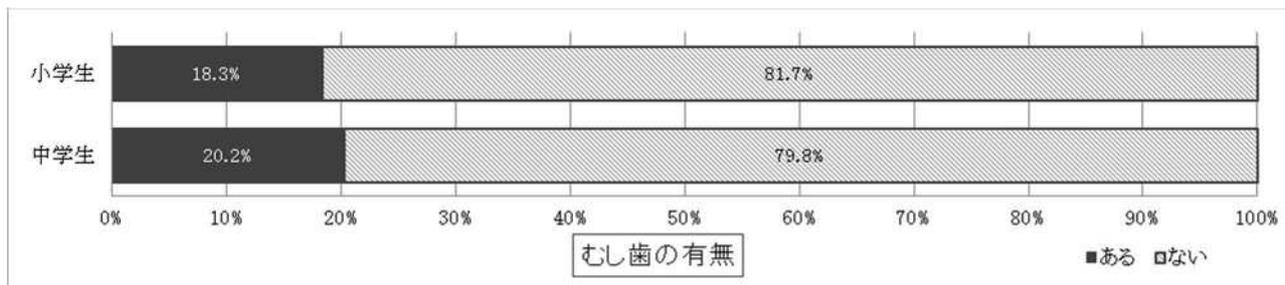


(N=2598)

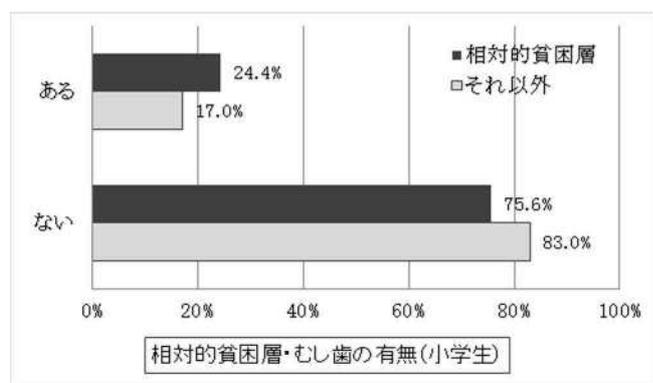
問 17(1) お子さんには、現在むし歯がありますか。

小学生、中学生の保護者ともに、「むし歯がある」という回答は2割前後です。

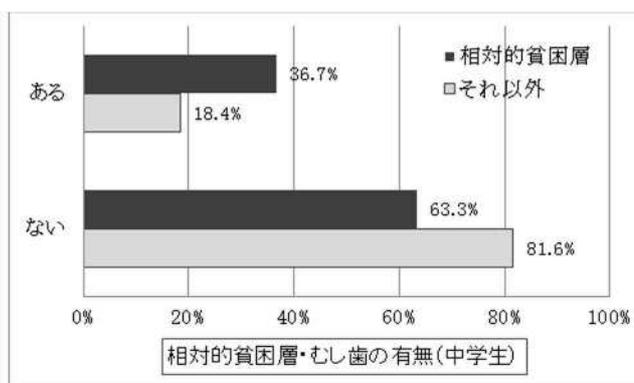
相対的貧困層に注目すると、小学生、中学生ともに「それ以外」よりむし歯がある割合が高くなっています。また、小学生の24.4%と比べて、中学生では36.7%と、むし歯である割合が高いことがわかります。



(小学生 N=1519 中学生 N=1082)



(相対的貧困層 N=123 それ以外 N=1240)

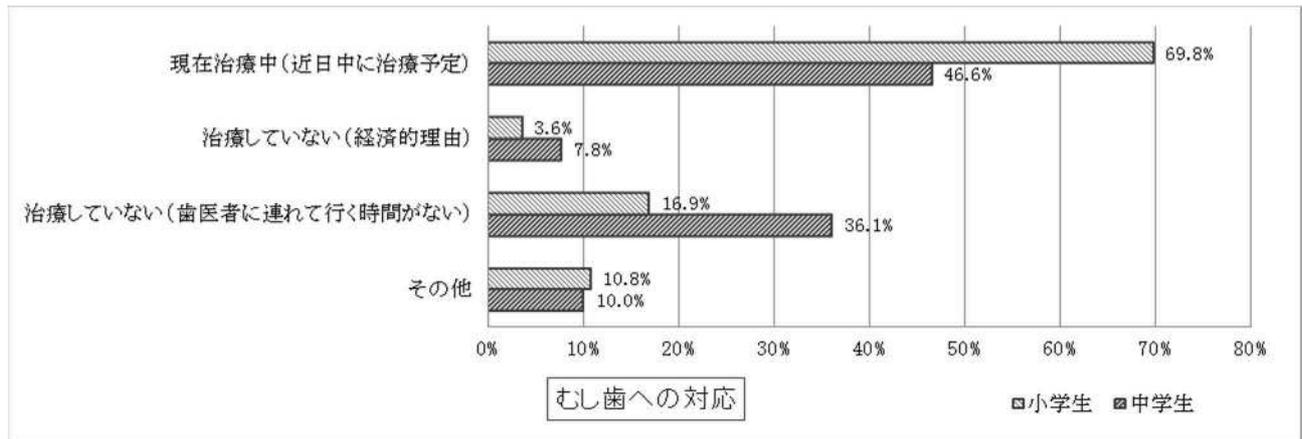


(相対的貧困層 N=109 それ以外 N=853)

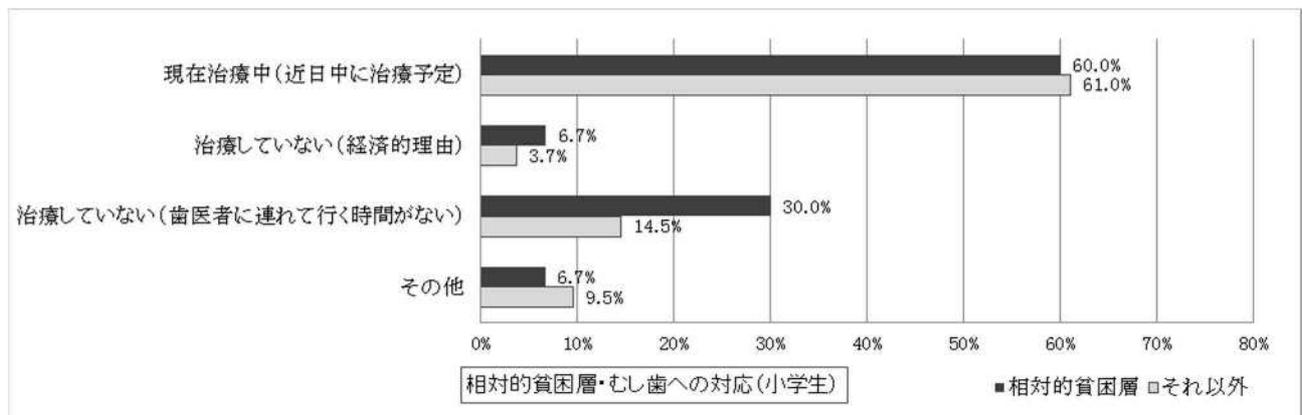
問 17(2) むし歯への対応状況 [問 17(1)で「むし歯がある」と回答した人のみの設問]

小学生、中学生の保護者ともに「現在治療中（近日中に治療予定）」という回答がもっとも多いですが、小学生の保護者の 69.8%に対して、中学生の保護者では 46.6%と、20 ポイント以上少なくなっています。また、「治療していない（歯医者に連れて行く時間がない）」という回答は、小学生の保護者で 16.9%に対して、中学生の保護者では 36.1%と 2 倍を超えています。

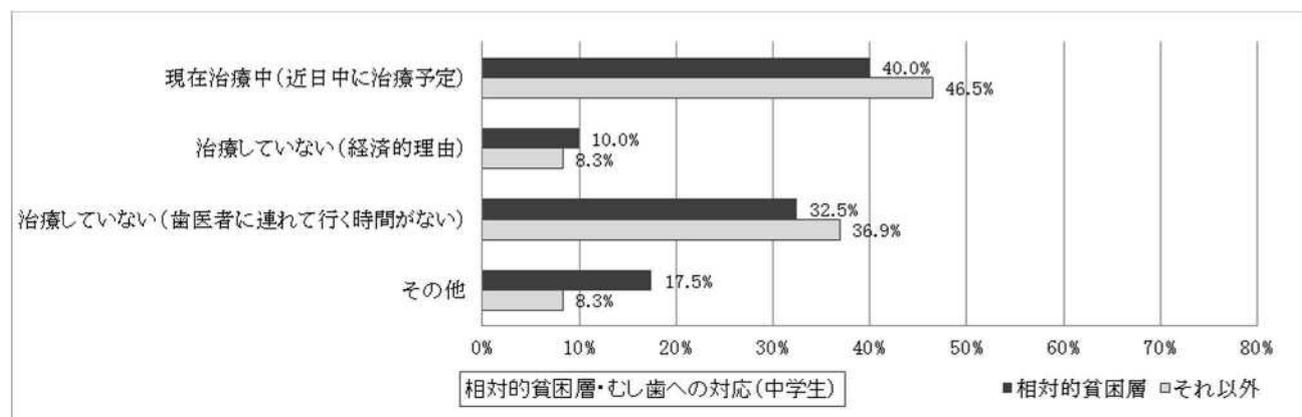
相対的貧困層では、小学生の保護者で「治療していない（歯医者に連れていく時間がない）」と「治療していない（経済的理由）」という回答の割合が「それ以外」より高くなっています。中学生の保護者では「それ以外」に比べて、「現在治療中（近日中に治療予定）」の割合が低く、「その他」の回答の割合が高いことがわかります。



(小学生 N=278 中学生 N=219)



(相対的貧困層 N=30 それ以外 N=211)



(相対的貧困層 N=40 それ以外 N=157)

子どもへの期待と関心＜小括＞

「子どもに希望する最終教育段階」は、小学生、中学生の保護者ともに「大学」がおおよそ6割を占め、それに次ぐ「高校」の1割台を大きく上回っています。相対的貧困層の保護者では「それ以外」に比べて「大学」の割合が低くなり、「高校」の割合が高くなって、両者の開きはかなり小さくなっています。また、「わからない」という回答も1割近くあります。実際に「希望の学校まで進学できると思うか」ということになると、「思う」という回答は約5割で、「わからない」という回答が4割台です。「思わない」理由でもっとも多いのは、「学力から考えて」で、次いで「経済的に余裕がないから」です。

「学歴が低いと将来希望する職業につけない」と考える保護者（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下の項目でも同じ）は9割近くに上ります。また、そのために「他のことを我慢しても子どもの教育にお金をかけた方がよい」と考える保護者も7割近いことがわかります。

「勉強することでいろいろな考えを身に付けることができる」と考える保護者は9割を超えており、保護者もつ教育への期待は、ただ学歴を得ることにとどまらず、いろいろな考えを身に付けることにあることがわかります。「努力すれば夢や希望は実現する」、「子どもには一生懸命勉強してほしい」と考える保護者も9割を超えています。

他方、「子どもには少しでも早く働いてほしい」と考える保護者は、小学生、中学生ともに2割に満たず、そのように考えない保護者が8割を超えていますが、「子どもには早く親元から独立してほしい」と考える保護者は、小学生、中学生ともに約4割で、「子どもには家事やきょうだいの世話をしてほしい」と考える保護者は、小学生、中学生ともに6割程度です。子どもには高い学歴をめざしてしっかり勉強してほしいと願う一方で、家事やきょうだいの世話を期待するものの、少しでも早く働いてほしいとは願っていない、という保護者のやや複雑な思いが表れています。

ひとり親世帯では、ふたり親世帯に比べて、「勉強することでいろいろな考えを身に付けることができる」「努力すれば夢や希望は実現する」「子どもには一生懸命勉強してほしい」といった項目で肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」）の割合が低く、否定的な回答がやや高いことが注目されます。